

自然に囲まれた憩いの空間



新マスコットキャラクター「こよよん」
 深川・狩小川地域の豊かな水辺「三篠川」の妖精。



オレンジカフェこよう

広島市高陽公民館

公民館の沿革・年表

- 昭和48年 高陽公民館開設
- 昭和49年 第1回「高陽公民館まつり」開催
- 昭和52年 公民館だより第1号発行
- 平成5年 開館20周年（記念誌発行）
- 平成15年 旧マスコットキャラクター「こよよん」誕生
- 平成28年 第1回「いこうようサロン」開催（10月）
- 平成29年 ボランティアグループ「オレンジスマイルこよう」結成
- 平成30年 第1回「オレンジカフェこよう」開催（4月）
- 平成30年 西日本豪雨災害で浸水（7月）
- 令和3年 新マスコットキャラクター「こよよん」誕生

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

（上）高陽公民館新マスコットキャラクター

耐震改修工事に伴い、マスコットキャラクターを一新し、豊かな自然に囲まれた高陽公民館の新マスコットキャラクターとして主催事業で積極的に活用。これまでの職員が作成したキャラクターのかわりに、新しく一般公募し、77点の応募作品の中から、地域住民の投票によって選ばれた（令和3年5月）

（下）毎月第4月曜日に開催する「オレンジカフェこよう」の風景

ボランティアが主体となって内容を企画・運営し、地域の方々が認知症の正しい知識を習得することができる場として、また、認知症の人やその家族が気軽に交流・相談できる場として定着してきている。レクリエーション1・2と歌の三部構成で、毎回3時間と長時間の催しであるが、栄養や認知症などの学習会、体操、座談会など多彩な内容で、参加を楽しみにしている人も多い。

1. 都道府県名	広島県	3. 公民館対象人口	12418人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線・無線の両方
2. 市区町村名	広島市	4. 建物設置年月日	昭和48年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（公益財団法人広島市文化財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1964人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 6286人（個人利用）	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8513人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 3,575人	合計		20,338人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人）	<input type="checkbox"/> 兼任 0人 （職員のうち社会教育士の数 0人）	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	深川保育園、高陽中学校、狩小川児童館、広島文教大学ボランティア部、広島市高陽・亀崎・落合地域包括支援センター、国立広島死没者追悼平和祈念館、ソフトバンク株式会社、株式会社玉屋、蔵前工業広島県支部、安佐北区図書館、中央図書館、男女共同参画推進センター、安佐北警察署、深川女性会、深川地区防犯組合、JALティース深川支部、小河原・上深川地区社会福祉協議会、安佐北区地域ささえあい課、安佐北区地域おこし推進課、狩留家郷土史会、公民館登録グループ（人形劇サークル、おはなし会ボランティア、ふれあいサロンオアシス、オレンジスマイルこよう）ほか

広島市高陽公民館

OPEN 8:30~22:00 H P <http://www.cf.city.hiroshima.jp/koyo-k/>
 TEL (082) 842-1125 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

認知症予防教室「いこうようサロン」（平成28年10月から実施）で、認知症や認知症予防について学ぶ過程において、参加者からの要望で、認知症カフェの実施を目的としたボランティアグループ「オレンジスマイルいこうよう」が立ち上がった（平成29年10月）。平成30年度から、同グループと連携して、認知症カフェ「オレンジカフェいこうよう」を開設している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【学習成果の還元・地域住民のつながりづくり、憩いの場づくりのために！（少子高齢化社会）】

1 オレンジカフェ研修会（6回、85人）

「オレンジカフェいこうよう」で実施する事業をより充実させるため、運営ボランティアが研修内容を企画、実施し、ボランティア自ら認知症に関する知識を深めている。

2 オレンジカフェいこうよう（6回、234人）

- ・認知症に関する正しい知識の習得や、認知症の人やその家族が気軽に交流・相談できる場所を提供する。
- ・看護師・介護士等の専門職が常駐し相談に乗ることにより、包括支援センターと連携した早期の対応を行う。
- ・地域住民の認知症への関心を高め、認知症の人やその家族が安心して暮らせるまちづくりへ繋げていく。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みとして、人数制限をし3密を回避。来館時の検温、消毒、マスク着用などを徹底した。また、カフェ風にコーヒーやお茶をのみながらの交流は効果的であり、参加者の楽しみであるため、ペットボトルや個包装の袋菓子を受付時に渡すように変更し、コロナ禍でも可能な方法で実施することとした。



「オレンジカフェ研修会」の様子



「オレンジカフェいこうよう」受付と会場

3. 取組による成果や効果

1 オレンジカフェ研修会

- ・月に1回の定例会で、前回の「オレンジカフェいこうよう」の反省や課題などを話し合い、今後の企画内容に反映させることで、スムーズな運営につなげている。
- ・テーマを決めた研修の他に、運営ボランティアが個々に研修してきたことを共有することで、研修内容の充実を図っている。

2 オレンジカフェいこうよう

- ・リピーターや新規の参加者が増え、地域に定着してきている。
- ・参加回数を重ねることで、参加者同士の交流が進み、地域住民のつながりに発展してきている。
- ・専門職が常駐し、参加者がいつでも相談できる体制であることを前面にPRしたことにより、地域から相談窓口として認識されるようになった。
- ・これまでの運営実績が、運営ノウハウの蓄積となり、ボランティア主導の運営が軌道にのっている。
- ・参加者が運営ボランティアとして新しく事業に参画する事例があった。今後もボランティアの確保に努めたい。



研修会で次の内容を確認する

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

「オレンジカフェいこうよう」では毎回、参加者へのアンケートを実施。翌月の「オレンジカフェ研修会」において、運営ボランティア、包括支援センターの職員などの専門職とともに、活動の振り返りを行い、アンケートの回答を踏まえて改善点等を話し合い次回に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館だけでは実施が難しいことも、ボランティアグループ、関係団体との連携により、地域住民の具体的なニーズに沿った細かな対応ができ、地域課題の解決につながっている。今後も継続した活動とするために、ボランティア、関係団体との連携を密にし、ボランティアが主体的に活動でき、その活動が円滑に進むように支援するファシリテーターとしての役割に徹することが大切。



司会（進行）もボランティア

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「オレンジカフェいこうよう」を継続していく中で、長く続ければ続けるほど、ボランティア自身の高齢化など、様々な問題が出てくる。それを見据え、活動をPRし、ボランティアを継続して募集していくことはもとより、活動を支えてくれる地域団体などと連携を強め、長く活動を続けていきたい。また、認知症は高齢者だけの問題ではないため、地域全体で考えていくことが必要である。そのために「オレンジカフェいこうよう」が老若男女問わずつどい、つなぐ場となり、地域課題を解決していける場となるように、今後の事業を展開していきたい。